



# 四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.6

【発行日】平成24年12月20日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課

〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

## 現代の図書館と オリエンテーションの必要性

図書館長 ダニエル・カーク



私が学生であった頃と比べて大学の図書館は変わりました。当時は目録カードや本、定期刊行物や新聞紙などがおかれていました。マイクロフィッシュやマイクロフィルムはハイテクであって、昔の日誌や新聞の記事を検索することができるのでスパイ映画から出てきたもののようなものでした。

図書館にはいまだに本や定期刊行物、新聞紙がおかれていますが目録カードや他のハイテクとされていた機材は最新の物と代替されました。学生は図書館の中にある資料を探すために検索プログラムが使えるようになり、数種類のオンラインのデータベースを駆使し研究を深める事ができるようになりました。

しかし私はそのようにして情報を得る事が学生の学習に役に立っているかどうか、疑問を持ちました。イリノイ州にある5つの大学の図書館で2年にわたって行われた研究を見てみるといくつかの結果は驚きでしたが、一つの結果は私が予想できるものでした。どうやら今でも司書が成功の鍵を握っているらしいです。30年前に司書に頼られていた業務は今とは違うかもしれませんが学生が図書館で学習するときには未だに必要なものであるということが分かりました。

「Ethnographic Research in Illinois Academic Libraries」によると学生の学習習慣は彼らが思っていたより悪いものだと分かりました。研究によると大半の学生が情報収集の全ての段階で苦勞をしている事が分かりました。しかし、学生にその責任は全て問えません。ほとんどの事例において、学生より司書の方が情報収集能力に長

けているのですが、教員が学生に対して司書への問い合わせを提言することの少なさが問題の元凶ではないかと思えます。

インターネットと共に成長した学生は研究の情報源を探し、信憑性を確認する事が大変苦手であるという研究成果には一番驚かされました。人文学者の監視の下、司書が言うインターネット上の「許せる程度の情報収集結果」を満たせたものは30人中7人だけでした。

研究者たちはインタビューの中でグーグルを他のどのデータベースよりも2倍以上挙げていた学生たちは実はその検索エンジンの仕組みが全く分かっていないという事を知りました。学生らは巧妙に導入されている不公平な検索結果を抽出するシステムの存在を知らず、どのようにしてグーグルで利用可能なツールを使い検索結果を絞るのかわかりません。

学生らはそれ以外のデータベースを使ってもさほど変わりません。彼らは多くの例で自らが研究している分野には適さないデータベースを使い、時にはもう参考には出来ない昔の記事が挙げられているデータベースを使ったりしていました。

どうやら司書は今までとなく重要な役割を担っているようです。その役割はなにかというと学生がインターネット中のジャングルのような大量の情報をかき分けて行くときに司書が助言をし、正しい道へと引っ張って行かなければならないのです。研究では図書館が行うオリエンテーションの重要性も取り上げていました。これらのオリエンテーションや図書館の活用方法を学習した学生はしていない学生より成績が良いという結果が出ています。

この研究の結果を見ますと司書と教職員はたしかに研究する義務がありますがそれとともに彼らには学生に尽くす義務もあります。学生には学費の上昇に伴いこれまで以上の課題があり、だんだん増えてきていますが各々の課題を克服していく責任があります。しかし、その努力を教職員や司書がサポートをする義務もあります。

これらの研究の結果は私が持っていた疑問に答えてくれました。四日市看護医療大学の学生は私が学生であったときには想像もできないようなツールや情報が使えるようになった分、30年前と比べて学生が学業で成功をするには司書の支援がこれまで以上に重要となってくるのではないかと思います。

平成24年度 四日市看護医療大学・大学院

# 入学式



平成24年4月1日(日) 大学6期生及び大学院2期生の入学式が挙行されました。当日は、四日市市副市長をはじめ、四日市市議会議長、市立四日市病院副院長・看護部長、三重県看護協会会長の来賓の方々にもご臨席いただき、教職員、保護者が参加のもと学部生119名、大学院生11名の新生が新しい学生生活へとスタートをきりました。式典では、河野学長からの入学許可宣言に始まり、学長告辞・理事長祝辞・来賓祝辞をいただき、学部生代表の小林春香さん、大学院生代表の山本美幸さんが、これからの学生生活に向けての入学宣言を新たな決意で述べました。

## 教員からのメッセージ



母性看護学 講師 日比 千恵

ほとんどの学生が夏休みを満喫している中、4年生の助産学実習が始まりました。初めて分娩介助を終えた学生からは、「すごく緊張して手が震えました」「産婦さんに声かけが出来なかった」と反省する言葉ばかり。自分の無力さを感じて涙することもありました。産婦さんを通して見るリアルな自分、そこから写し出される嫌な自分に向き合っているようでした。そんな学生たちに力を与えたのは、「ずっとそばにいてくれて本当に良かった」「一番苦しい時に腰をさすってくれて感謝しています」「次のお産の時にも付き添ってほしい」という産婦さんからの声でした。3ヶ月間、昼夜に及ぶ厳しい実習は、学生たちにとって助産師に必要な知識や技術を学ぶだけでなく、専門職とは何か、そして自分を見つめる貴重な時間だったのではないのでしょうか。実習を終えた学生からは、専門職としての大きな成長を感じ非常に嬉しく思います。

学生たちが自分の現状に満足することなく、もっともっと産婦の思いに気づき、母子に寄り添える助産師になってくれることを信じて、来春学生たちを社会に送り出したいと思っています。

## 校友会 新入生歓迎会

4月3日(火)、新入生歓迎会が学生食堂で行われました。これは、学生間や教職員との親睦を深め、学生生活をより充実したものにしてもらおうと校友会の主催で毎年行っている催しです。

当日は、校友会代表や教員から新入生に対して歓迎の挨拶のあと、クラブ・サークルの紹介、軽食を交えてのパーティーへと続きました。緊張気味だった新入生の表情も徐々に和らぎ、いい雰囲気の中で、大学生活のスタートにふさわしい交流の場となった様です。

主催した学生たちは「多くの学生の参加があり、とてもうれしく思います」と語っていました。



## 教育後援会役員会・総会・教育セミナー

5月19日(土)、本学において、平成24年度教育後援会役員会が開催されました。その席で、本年度の総会では、同時に保護者向けのイベントを行うかどうかの提案があり、協議の結果、総会の後、保護者向けの講演会を実施することが決定されました。

総会は7月14日(土)、本学で開催され、河合正信会長の挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員を選出、平成24年度の事業計画および予算案について審議され、すべての

議案が承認されました。

役員会での決定通り、総会終了後、「教育セミナー」と題した講演会を開催いたしました。市立四日市病院・副院長兼看護部長の吉原喜代美先生を講師に迎え、「看護師の現場と仕事」というテーマで90分のご講演をいただきました。ご子弟の将来の職業に直結するテーマで、保護者には有意義なセミナーであったと思います。また、セミナー終了後には、学生食堂に軽食を用意し、保護者同士が交流する場を設けました。総会・教育

セミナーにはおよそ50名のご参加をいただきました。今後も、教育後援会では保護者向けのイベントを企画していきたいと考えております。



## 保護者懇談会



今年度で6回目となる教育後援会主催の「保護者懇談会」が、10月6日(土)に本学で開催されました。

午前の全体会では、河野学長より本学の教育の取り組みについて、続いて宮崎学科長より学生生活についての説明がありました。その後の質疑応答では、保護者から様々な質問が出され、活発な意見交換がされました。終了後は会場を学生食堂に移し、昼食を兼ねて懇親会が行われ、保護者と教員、あるいは保護者同士が和やかな雰囲気の中、活発に交流する場面が見受

けられました。

午後の部では、アドバイザーの教員による個別面談が行われました。アドバイザー制度とは、学生を15名程度の少人数グループに分け、担当する教員が学生生活全般をきめ細かくサポートする本学独自の制度で、個人面談では、学生の様子をよく把握している教員から、学業を含めた現状や今後のアドバイスなどを聞くことができました。

今後も保護者の方々にとって有益な情報を提供できる保護者懇談会にしていきたいものです。

## オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスが、7月21日(土)、8月6日(月)、8月26日(日)に行われました。今年も東海地区を中心に多くの高校生とその保護者等の方にご参加いただきました。全体の参加者数は昨年を少し下回ったものの、高校生自体の参加者数は昨年並みであり、本学への関心の高さは引き続き高い状況にあると感じられました。

当日の内容として、午前の全体説明会では、学長の挨拶から始まり、四日市市健康部部長から本学の支援制度などについてお話をいただき、次に今年度の入試説明を行いました。その後、学生食堂へ移動しバイキング形式の昼食をはさみ、午後は看護実習体験、模擬講義、施設見学など自由にイベントに参

加いただき、大学の雰囲気を感じてもらう時間としました。そして、学生ホールでは、入試や奨学金などについて相談する個別相談コーナーのほか、昨年に引き続き在學生と直接話ができる「先輩と話そうコーナー」を設け、受験勉強や大学での授業・実習などについて熱心に質問する高校生や保護者で賑わっていました。

参加された方の声をお聞きすると、オープンキャンパスを通して四日市看護医療大学を理解していただき、今後の進路や目標を決めるにあたっての有意義な機会の提供になったと思われま



## 平成24年度防災訓練



9月10日(月)13時から東海海地区に大規模地震災害が発生したことを想定し、震災発生直後から数日後の帰宅誘導までの防災行動の把握を目的とした防災訓練を行いました。

訓練には教職員と学生ら約90名が参加し、緊急地震速報を受信した避難訓練や安否確認(学外者に対して災害用伝言板を利用)などを行いました。また、避難生活や救護体制構築として、実際に避難生活の必需品等を準備し、生活体験の訓練を実施しました。

# 職員研修・活動について

## ○平成24年度FD (Faculty Development) 活動について

FD委員会委員長 河野 啓子

平成19年4月に開学した本大学は、今年で6年目となりました。他の大学も同じだと思いますが、年ごとに入学してくる学生の学力レベルが多様化し、すべての学生にそれぞれの学力を伸ばしてもらうためには、かなりの教育力が必要とされます。そのため、本大学では、FD活動に力を入れ、教員の教育力向上を図っています。全員参加を原則にしている研修会では、外部講師を招いての講義を受け、その学びをふまえ、グループ討議・全体討議を行って、そのエッセンスを自分の教育改善に役立てています。今年度は3回の研修会を実施することとし、第1回はハラスメント対策委員会との共催で「キャンパスにおけるハラスメントの防止に向けて」をテーマに8月9日に実施しましたが、教育の基本である、学生とのよい関係づくりに役立つ研修でした。第2回は12月に「授業計画の構築と展開」、第3回は来年3月に「コーティング」をテーマとし、実施予定です。

## ○学生支援およびアドバイザー制度について

学生委員会委員長 塚越 フミエ

学生委員会は6名で構成されています。委員会の重要な役割は、学生一人一人が豊かな学生生活を送るための支援活動です。すべての教職員は学生のニーズにどのようにこたえられるか、委員会ではその具体策や計画を話し合い実現できるように努力しています。さまざまな支援活動のうち、特に大切にしたい活動の一つにアドバイザー制度があります。本制度は一人一人の学生に行き届いた学習・生活支援をするために設けられています。学生がもっとうまくこの制度を活用できるようにと、夏休み中に全教員参加の研修会を実施しました。研修会では制度の在り方などについて有意義な意見交換がなされました。看護学の学習は、人の命に関わる専門職への道であるため学生にも教員にもストレスの多いものです。学生はこの制度をうまく活用し有意義な学生生活を送って欲しいと思っています。

## ○平成24年度 ハラスメント対策研修会

ハラスメント対策委員会委員長 山本 美佐子

8月9日、本学教職員対象に「キャンパスにおけるハラスメントの防止に向けて」をテーマに平成24年度ハラスメント対策研修会を開催しました。前半は、C・S・H・全国ネットワーク東海ブロック代表で椋山女学園大学の吉田あけみ教授の講演、後半は教職員が7つのグループに分かれて意見交換し、最後に吉田先生からコメントを頂きました。

ハラスメントになるかどうか線引きは難しいが、同じ対応でも受取る側には個人差があること、相手はどう受け取っているかが大事であること、自分の価値観や思い込みで対応していないか、人格を否定していないかなど、ハラスメントを意識しながら、日々考えていくことが大事であることを再認識する機会になりました。

※C・S・Hはキャンパス・セクシュアル・ハラスメントの略です。

## ○事務職員研修について

事務局長 三宅 真一

高まる大学への社会的要請に対しては、大学全体での組織的な取り組みが求められます。大学組織は、教育・研究において一定の自由度を保障された教員集団と指揮命令系統のもとに組織化された事務組織とのハイブリット的な構造を持っています。それぞれの短所を補い、長所をさらに生かすような組織運営、つまり教職協働が求められますが、これの最適な運用方法は、各大学がそれぞれの特質を踏まえて試行的に獲得している段階といえます。本学の事務職員研修は、このような課題を認識して大学運営の最適化を目指して実施されています。

# 社会貢献活動

## ■みえアカデミックセミナー2012 2012.7.19

『こころとからだの健康づくり～100歳までの台本をつくりましょう～』を開催しました。

平成24年7月19日(木)三重県文化会館 レセプションルームにて、「みえアカデミックセミナー2012」の公開セミナーを開催しました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセ



ス」という全体テーマのもと、各校が1日ずつ公開セミナーを担当するというものです。

今年で5回目の参加となる今回は、河野啓子学長が「こころとからだの健康づくり～100歳までの台本をつくりましょう～」という演題で講演を行いました。

人生の最後のときまで、自立して楽しく過ごすためにはどうしたらよいか、それぞれの人が自分に合った100歳までの健康生活の台本を作れるよう、こころとからだの健康づくりについて分かりやすく説明。生理的年齢を体力年齢で測定する参加型テストで

は、会場から何度も笑いが起こっていました。当日は、暑い中を110名もの皆様にご来場いただきました。



## ■平成24年度公開講座 2012.7.29

『認知症の方のQOLを支える』を開催しました。

平成24年7月29日(日)じばさん三重5階大研修室にて、平成24年度 四日市看護医療大学公開講座『認知症の方のQOL (生活の質)を支える』を開催しました。

前半は、濱畑 章子教授が「認知症の方の理解とコミュニケーション」という演題で講演、参加者の皆様も熱心にメモをとられ



ていました。

後半の老年看護学領域の教員3名による嚙下ドリンクの体験コーナーも好評でした。アンケートでは、

「認知症の方に対して周囲の人(接する人)の意識や態度を変えることが今後のQOLを大きく左右するのだと感じました。安心して生活していただける場を提供していけるように努めていきたいと思いました。」

「認知症の方と接する中で悩むこと迷うことがたくさんありましたが、今日の講義を聞き、これから働いていく中で役に立つことをたくさ

ん聞けました。初心に戻り、利用者さんや認知症の方とコミュニケーションをとっていきたいと思いました。」などの貴重なご意見をいただきました。



## ■河野啓子学長が奥井幸子賞を受賞

平成24年3月、メキシコのカンクーンで開催された、第30回世界産業保健学会において、産業看護科学委員会から、第1回Yukiko Okui Awardをいただきました。この賞は、奥井幸子先生(岡山県立大学名誉教授)の寄付によって創設されたもので、産業看護の分野に貢献した研究に贈られるものです。この度の研究テーマは「産業看護職に必要なコンピテンシー」で、野口多恵子教授、畑中純子准教授、後藤由紀准教授とともに行った研究です。

河野啓子



# 平成24年度 臨地実習について

実習委員長 豊島 泰子

## Report

本学も6年目を迎え、4期生の臨地実習が始まりました。これに先んじて、8月からの4年生の助産学実習をかきりに、3年生の1年間にわたる各領域実習が9月18日よりスタート致しました。

看護は、実践の学問であるので臨地実習は必須です。学生は、1年次からの実習を積み重ね、本学の実習目的である対人関係能力・判断能力・看護実践能力・問題解決能力を養い、看護職に必要な人間愛・倫理観に基づく人間尊重の態度と自己の成長を育んでおります。

本学では、これまで実習に関わる関係者と話し合いを重ね、調整を行いながら準備してまいりました。今後も、関係者とともに学生の実習環境を整え、学生が臨地実習を通して人間として、看護専門職として成長していくのを見守っていききたいと考えております。皆様方のより一層のご協力とご支援をよろしくお願い致します。



## 臨地実習の報告（これまでの学びより）

### 小児看護学実習について

4年生 伊藤 里奈

私は小児看護学の実習で重症心身障がい児を受け持たせてもらいました。小児看護学の講義で、重症心身障がい児について学んでいたものの、実際に四肢麻痺で無表情の児を前にして、どのように関わっていけば良いのかわからずとまどいました。しかし、発達に応じた遊びを一緒に楽しんだり、毎日、児の横で寄り添っているうちにリラックスしている時の表情などの微妙な変化を感じ取ることが出来るようになりました。最終日、2週間を通して初めての笑顔を見せてもらうことができ、感動するとともに児と良い関わりが持っていた事にとてもやりがいを感じました。疾病をもつ患児の生活をケアしていく際には、安全・安楽を守るだけでなく、個人に合わせた関わりや遊びを通して発達を促していく事が大切であると学びました。



### 母性看護学実習について

4年生 加藤 唯記



出産が終わり、なりたての母親が自分のわが子を腕で抱きながら、優しく嬉しそうなお顔を私は一生忘れることはないと思います。そして、生まれたての赤ちゃんの表情は、実習中であることを忘れるくらい癒されるものでした。母性看護では、出産から退院まで一週間と短いながらも、母親として、これから始まる育児に自信を持っていけるように授乳方法や沐浴の仕方など育児技術の指導を、その人に適したやり方を一緒に見出していきます。また、母と子の経過をウェルネスの視点で見ていくことが求められることを学びました。男性である私は、関わりの中で戸惑うことも多々ありましたが、母親の強さや力強く生きる子の愛らしさに触れ、命の大切さを一身に感じることができた体験は私の宝であります。

# 海外研修



7月28日▶8月20日.....✈️



日本人、看護師さんとの交流!

in カリフォルニア州立大学  
ロングビーチ校



本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との間に学術協定を締結し、毎年約30名の学生が同校を訪れて海外研修を実施しています。この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ語学研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。

今年は、2年生30名が7月28日～8月20日までの3週間、高山直子准教授、杉崎一美准教授引率のもとカリフォルニア州立大学ロングビーチ校での海外研修に参加しました。生活スタイルや習慣も異なる生活文化を肌で感じるとともに、海外ならではのよりよい友情関係を築くことができました。

## 2年生 松本 好充・田路 康恵

私達がアメリカで過ごした3週間は、毎日がとても新鮮で刺激的なものであり、このような充実した夏をすごせたことを誇りに思います。

毎日の英語の授業では、ヒアリング能力や語彙力等を鍛えることができ、語学力のスキルアップに繋がりました。施設見学や医療現場で働く特別講師の方を招いた講義では、アメリカと日本の医療の違い、変わらぬところを五感で感じることができました。

30人で共に協力し、支えあいながら過ごした有意義な時間は、かけがえのない宝物です。この経験を これからの学びにも繋げていきたいと強く思います。

私達は引率の先生を始め、多くの方々のおかげで、3週間の海外研修が楽しく実りあるものとなりました。

その感謝の気持ちを何らかの形にしたいと思い、先生方にサプライズで色紙を渡すことを30人で話し合い、決めました。そして、プレゼントを買う人、装飾品を買う人等を役割分担し、各リーダーを中心に先生に見つからないよう自由時間を費やし作成しました。

その色紙をアメリカでお世話になった方には、研修の卒業式に、引率の先生にはドミトリーを離れるとき、学長、副学長には帰国してから感謝の想いとともにお渡ししました。

本当に海外研修に関わった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

今年も、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の研修に、2年生30名が参加しました。学生たちは、広大な敷地の大学・寮生活に戸惑いながら、午前中は英語授業、午後は看護学部の講義、病院・施設見学をしました。

モデル人形の心音聴取に驚く学生、助産体験で感激のあまり涙ぐむ学生、現地看護学生たちに東日本大震災後の活動を語った学生、老人保健施設の方々に折鶴を準備した学生、様々な学生たちの姿がありました。この研修を通して学生たちは、本学からアメリカ、そして世界に繋がる看護を実感した研修だったと思います。



第6回

# よんよん祭

2012.10.27~28

テーマ  
**Human Ecolution** - 説伝革命

第4回目となる四日市大学と合同開催のよんよん祭。  
初日は天候も良く、多くの来場者により賑わいを見せていましたが2日目はあいにくの雨となってしまいました。両日も、吉本芸人のライブが行われ多くの人たちに好評だったようです。本学の学生からは、模擬店5店、ダンス4チーム、2バンドが参加。  
また、事務職員主催による縁日形式で行われた「ザ・ジムキョク」も老若男女を問わず多くの方に喜ばれていました。  
さらに、実行委員として企画・運営に参加する学生もおり、両大学の良さが全面に出た大学祭となりました。

まずはじめに、今年も無事によんよん祭を行えたことを嬉しく思います。

私は今回初めて実行委員として参加しましたが、大変貴重な経験をすることが出来ました。

そこで気付いたことは、よんよん祭は学生だけでなく先生方や大学側のバックアップ、地域の方をはじめとした来場者の皆さまなど本当に多くの人たちとの繋がりがあってこそ成り立つものということでした。

2日間を通して参加者全員が一体となる盛り上がりを見て、私自身はもちろん皆さまにも楽しんでいただけたよんよん祭になったと感じました。

大学祭実行委員長 2年生 田路 康恵

今年のよんよん祭は晴天からのスタート。様々な模擬店が立ち並び、特設ステージでは看護学部によるダンス、メインステージではたくさんのグループがライブで盛り上がりを見せていました。

2日目は雨になってしまいましたが、両日ともに盛り上がったのが吉本ライブ。例年はアーティストによるライブでしたが、今年は吉本芸人さん10組によるお笑いライブをしていただきました。また、男装女装・コスプレコンテストや後夜祭でのピンゴ大会など四日市大学・四日市看護医療大学が共に楽しむことができました。

最後になりますが、よんよん祭を支えてくださった皆様、ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

学友会会長 2年生 加藤 志野

# クラブ紹介

## 【平成24年度 四日市看護医療大学 学生公認団体クラブ】

- 体育会系** ■公式テニス部 ■ゴルフサークル ■卓球部 ■ダンスサークル ■バスケットボール部 ■バドミントン部 ■バトン部 ■バレーボール部 ■陸上球技部 ■フットサルサークル
- 文化会系** ■家庭科部 ■ボランティアサークル ■Happy Mariage(礼儀作法) ■軽音楽部 ■IN会

### フットサルサークル

私達フットサルサークルは、今年4月に設立したばかりのサークルです。1年生と2年生男女合わせて15名程度で、主に毎週月曜日に体育館で活動しています。

ほとんどがサッカー、フットサル未経験者ですが、毎週楽しく体を動かし活動しています。またフットサル以外にも、大学祭で模擬店の出店も行いました。普段、運動不足を感じている方やフットサルをやってみたくてやったことないし…という方はぜひ、体育館に遊びに来てください。私たちと一緒に大学生活を楽しみましょう。



### IN会

IN会とは、International Nursingの略です。活動は月に2回で、木曜日に学内で17時45分から活動しています。国際看護に興味のある学生が集まり、プレゼンテーションを出し合ったり、学外のイベントに参加したりもして、楽しく活動しています。今年度サークルから部になったばかりのIN会ですが、新しいメンバーも増えてにぎやかな雰囲気なので、誰でもすぐに溶け込めるといいます。見学だけでも大歓迎なので、興味のある方はぜひ一度見に来てください。



## 学生相談室

毎週金曜日の午後1時~4時に、臨床心理士の先生による本学学生を対象としたカウンセリングを受け付けています。日常生活での問題や実習での悩み等、ストレスやトラブルがあれば、一人で悩まず相談してください。予約制ですが、空いていれば当日でも受け付けています。秘密は厳守されます。



## 保健室だより

11月5日と16日に、本学で学校医 伊藤クリニック 伊藤毅医師によりインフルエンザワクチン接種を実施し、全学生および教職員のうちの希望者計382名が接種しました。例年冬季に流行するマイコプラズマ肺炎、RSウイルス感染症の患者数が、9月にそれぞれ前年の約3.8倍、前年の約2.6倍と、早くも流行していることが報じられています。マイコプラズマ肺炎、RSウイルス感染症は小児がかかることが多い病気ですが、感染予防対策はインフルエンザと同様で、手洗い、うがいが基本です。冬季に2・3年生は実習、4年生は国家試験があります。日々の健康管理で体調を整え、それぞれの目標を達成してほしいと思います。



## コンピュータ教室リプレイス

平成24年度から2階コンピュータ演習室、1階コンピュータ室のWindowsシステムのリプレイスを実施いたしました。Windows7を搭載したHP製パソコン62台、EPSON製プリンタ4台が新しくなっており、講義や自習に最適な教育環境が整備できました。



## 平成23年度

# 国家試験・就職進路状況

(平成23年度卒業生)

第2期卒業生  
国家試験・就職進路で  
大健闘!!

## 保健師・助産師・看護師国家試験合格状況

### 【国家試験合格率】

- ◆ 看護師: **96.0%**(受験者99名/合格者95名)
- ◆ 保健師: **82.7%**(受験者98名/合格者81名)
- ◆ 助産師: **87.5%**(受験者8名/合格者7名)
- ◆ 3資格(看護師・保健師・助産師)同時取得者: 6名

平成23年度国家試験は、看護師合格率96.0%、保健師合格率82.7%、助産師合格率87.5%、でした。

本学の国家試験対策として、年間10回の国家試験対策模試(看護師6回・保健師2回・助産師2回)を始め、夏季・秋季・冬季・直前期の国家試験対策特別講義、ガイダンスなどを実施し、4年生全員の合格を目指します。また、2・3年生対象にも特別講義と模試を実施し、学力の定着と国家試験への意識を高めるなどのバックアップ態勢を整えています。

## 就職・進路状況

本学の平成23年度卒業生の就職率は96.0%でした。これは全国大学生の就職状況調査による93.6%(就職希望者に占める就職者の割合)を上回る結果でした(平成24年4月4日付文部科学省・厚生労働省調査)。また、中部地区の就職率94.9%も上回る結果でした。全国的に求人状況は依然厳しい中、高い就職率を挙げる事ができました。今回の結果は、経済雑誌「週刊ダイヤモンド」でも評価されるなど、本学の就職支援・指導と学生自身の奮闘の結果であり、次年度に続く大きな成果と言えます。



### 1.進路状況

項目	卒業生	就職			その他
		就職希望者	就職者	就職率	
合計	101	101	97	96%	4

### 2.就職先

地域別就職先			
三重県	市立四日市病院・三重県立総合医療センター・四日市社会保険病院・みたき総合病院・三重病院・伊勢赤十字病院・松阪市民病院・松阪中央総合病院・済生会松阪総合病院・四日市市保健所(保健師)・四日市健診クリニック(保健師)・木曾岬町役場(保健師)		
愛知県	名古屋大学医学部附属病院・名古屋第一赤十字病院・名古屋第二赤十字病院・藤田保健衛生大学病院・藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院・名城病院・中部労災病院・海南病院・名古屋掖済会病院・協立総合病院・安城更生病院・岡崎市民病院・小牧市民病院・東海市民病院・刈谷豊田総合病院		
三重県・愛知県以外			
東京都	東京女子医科大学病院・東芝ヒューマンアセットサービス(保健師)	静岡県	静岡県立静岡がんセンター・静岡県立総合病院・聖隷浜松病院
長野県	飯田市立病院・下伊那厚生病院	京都府	京都大学医学部附属病院
岐阜県	岐阜県総合医療センター	島根県	松江赤十字病院

平成24年度については、約90%の内定率です。(11月現在)

本年度  
**学位記授与式**

平成25年3月10日(日)  
四日市都ホテルにおいて  
挙行する予定です。

# 大学院 看護学研究科看護学専攻(修士課程)

多様化・高度化する看護ニーズに対応する専門知識・技術を有する高度実践看護学専門職や看護学の発展に寄与・貢献できる教育・研究者を養成するため、平成23年4月に四日市看護医療大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程、入学定員10名)を開設しました。修士論文コース(基礎看護学領域、産業看護学領域、実践看護学領域)と専門看護師(CNS)コース(実践看護学領域)の2コースがあります。

ここでは社会人のために、勤務を継続しながら学習できるよう、平日の午後6時以降や土曜日に授業を行うほか、夏季休暇などを利用した集中講義も併せて行います。また、仕事をしているなどの理由により、2年間の標準修業年限で修了が困難な学生に対して、在学3年間の長期履修学生の制度を設けています。



急速な少子・高齢化や国際化の進展など社会環境が激変する一方、生活習慣病の増加や世界的な感染症の流行など、私たちはこれまで経験したことのない多様な問題に直面しています。

こうした問題の克服に向け、高度な専門的知識・技能と豊かな人間性に基づく実践能力を併せ持つ保健・医療・福祉専門職の養成が求められています。高度化し細分化する医療現場にあつては、これまで以上に「人間」そのものを見つめることが大切になっていきます。本研究科では、生命の尊厳と深い人間理解に基づいた看護実践能力を培い、看護医療分野でリーダーシップを担う高度専門職業人並びに高度な専門知識を備えた教育・研究者を養成します。

現在、修士論文コースで18名、専門看護師(CNS)コースで3名の学生が学んでいます。



## 2013年度 大学院入試概要 ※修士論文コース、専門看護師(CNS)コース共通

区分	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	10名 (I期募集人員も含む)	2013年1月30日(水)～ 2月8日(金)締切日 消印有効	2013年2月16日(土)	2013年2月22日(金)

- 事前相談 出願前、志望する領域・分野の研究指導教員と、研究教育活動について事前相談が必要になります。
- 入学資格審査 入学資格審査が必要な方は、出願前に、本大学院において、個別の入学資格審査を行い、入学資格認定の可否を決定します。なお、審査料は必要ありません。

## 入学資格審査申請期間および審査発表

区分	入学資格審査期間	審査発表
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	2013年1月10日(木)～1月22日(火)必着	2013年1月25日(金)

## 選抜方法 ※修士論文コース、専門看護師(CNS)コース共通

区分	試験科目等
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	・専門科目[看護共通](60分) ・英語(60分) ・面接 ・出願書類 ・専門科目[指定科目](60分)

- ※専門科目は、必須「看護共通」のほか、「志望する分野が指定する科目」を選択し、受験してください。
- ※英語は、一般選抜と社会人特別選抜で問題が異なります。なお、英和辞書1冊の持ち込みを可とします。(電子辞書類は不可)

## 試験会場

四日市看護医療大学／三重県四日市市萱生町1200

詳細については 2013年度学生募集要項で必ずご確認ください。